

## えりもの方言(その1)

小川とく子<sup>1)</sup> 新松 隆<sup>1)</sup> 新松信子<sup>1)</sup> 中岡利泰<sup>1)2)</sup>

## はじめに

えりも町は江戸時代後半から、本州方面からの移住者が徐々に増加し、その出身地は東北地方、岩手県、青森県、秋田県をはじめ、新潟県、富山県、石川県などが多いといわれている。また、本州各地区から直接幌泉へ転居するのではなく、箱館を中心とする道南地方へ、まず移住し、その後、景気のよい幌泉へ移住する先代も確認されている。

よって、えりも地域で話されている言葉は、東北地方から北陸方面を源としつつ、道南地方から浜言葉(漁師言葉)もまた、持ち込まれたと考えられる。

近年、交通網の発展、テレビやラジオによる情報網の発達、教育の一元化などにより、地域独特の方言があまり使われなくなってきている。方言は、その地域の歴史、文化を象徴するものであり、地域の特性を示す重要な要素である。

本稿では、失われつつあるえりも地域特有の方言を、活字として記録することを目的とした。

採録は、日常の会話の上で特にえりもらしい方言や表現を記録し、五十音順にまとめ、意味を記載した。なお、一部の人のみ使用している言葉、すでに使われなくなった言葉も含まれている。

あ行		あくど	かかと
あい	北の風	おちびより	落ちひより。天气が崩れる。
	<あいの朝風、くだりの夜風: えりも岬>	あっぺ	逆、反対
あいしもかぜ	北北東~北東の風	あとさり	バック・あとずさり
あいなみ	北の波	あば	網につける浮き
あいひかだ	北西の風	あひるにたまご	返す気持ちはさらさらない
あいらしくない	可愛くない	あぶらこ	主にウサギアイナメ(魚)
あおつぶ	=いそつぶ、(貝)	あめる	腐る
おか	丘・陸。海から見て浜辺に近い方。	あやこ	お手玉
あがかき	船内に入った水をすくい出す道具。	あわい	もう少し
あがどり	=あかがき、あかとり	あんべ	いくぞ
あかば	アカバギンナンソウ(海藻)	いいふりこき	格好をつける
あかべこ	えりも短角牛(赤毛短角牛)	いきあう	出会う
あがりさまえ	あがりなさい	いくべ	行こう
あがる	入学する	いそかじか	ギスカジカ(魚)
あく	灰	いそがに	ハナサキガニ(動物)
		いそつぶ	磯の岩礁にいる巻貝、 主にヒエゾボラ

1) えりも町郷土資料館N42°の会

2) えりも町郷土資料館 058-0203 北海道えりも町字新浜207 E-mail: erimomus@cocoa.ocn.ne.jp

いっちょまえ	一人前	おらほ	自分のうち・家族
いとりのり	冬、岩につく細長い「のり」の一種、スサビノリと思われる。 (海藻)	おんちゃ	弟
いわのり	冬、岩につく「のり」。(海藻)	か行	-----
うだで	非常に、ものすごい	かいた	束ねる
うのとりのり	ウミウなど(鳥)	かいねえ	仕事ができない・役立たず
うまっこ	お年玉	かいべつ	キャベツ(野菜)
うめ〜か〜	おいしいか?	かえっちゃ	裏返し
うんだかきつぶれたでもない	音沙汰がない	かおばかおにする	怒りの表情
え	家	がおる	弱る
えだばた	コンブ採取時に、旗元の合図を、隣から次へ伝える立場の人。	かか	お母さん
おかまわり	陸でコンブ干しの作業をする人、またはその仕事。	かかんべ	コンブの根
おがる	大きくなる、生える、	かげ	裏側
おぞい	粗末な	かしがる	傾く
おっか	お母さん	かしやがる	働く、稼ぐ
おっかちゃ	お母さん	かしわぎ	カシワの木(植物)
おっかない	恐ろしい	かじる	担ぐ(かつぐ)
おっちゃ	お父さん	がせね	幼い・わかんないもんだ
おっと	お父さん、オットセイ(動物)	かたい	ウニがしっかり岩にくっついてい る、<がんぜがかたい=海が時化 る前兆>
おつねん	越年、冬を越えること。越冬。 冬中、	かたる	結婚する、しゃべる、同行する、 <かたって行った=みんなで رفت た、同行して行った>
おつねんむこ	越年婿、なまけもの、たいして働 かない。冬・出稼ぎに来た時だけ の婿、夫となる人、春になると故 郷へ帰っていくので役に立たない 人のこと。	がちゃぼん	井戸の手押しポンプ
おど	叔父さん	かつか	母さん
おどっちゃ	父さん	かつちゃ	母さん
おぼのり	10月頃に岩につく「のり」の一 種(海藻)	かつちゃく	ひっかく
おぼえたころ	覚えた頃、学んだ頃	かつつく	おいつく
おもて	へさき、船首	がっぱ	木製の女子用履物(下駄の一種)
おんばいろ	オオウバユリ(植物)	かっぱがる	ひっくりかえる
		か〜ね〜か〜	食べないか?
		かぶた	昆布の根、コンブの根づいた石
		かます	むしろを袋状にしたもの。
			かきまぜる。

かまど	家計		かわいい感じをだす。
かまどかえす	家計をだめにする。	こけ	コンブの表面の胞子嚢が成熟し胞子を出したコンブ。毛がついているように見える。
かみ(上)	自分のいるところ(中心)より様似側	こけのみ	ガンコウランの実(植物)
かみぎり	シャチ(動物)	ごしょいも	ジャガイモ(植物)
かみつっこみ	上突っ込み、上側から丘へ流れる潮流。(えりも岬)	ごだ	浜に打ち上げられた海藻
かみはらいしお	上はらい潮、上側から丘に沿って流れ、沖へ出て行く潮流。(えりも岬)	こっこ	動物の子ども、赤ちゃん、卵
からがく	結ぶ・ロープをかける、縛る。	こっすべない	ずるいがしこい
からすがい	イガイの仲間(=まるこ一、ひいよりがい、くろがい)(貝)	ごっぺかえす	失敗する。(おこる。)期待を裏切られショックを受ける。
からっぽやみ	怠け者、何も考えていない、役に立たない	このましい	うらやましい
がんぜ	エゾバフンウニ(動物)	ごみ	拾ってもお金にならない海藻
がんづ	ナガツカ(魚)	ごむ	スガモ(海草)
かんかい	コマイ(コマイの干物)(魚)	ごめ	カモメ類(鳥)
がんび	シラカバやダケカンバ(植物)	こわみとり	疲れがとれる
きなんぼう	マンボウ(魚)	こんにゃろこいや	このやろ~!
きみ	トウモロコシ(野菜)	こんぶまるき	昆布を出荷するために20kgにまとめる作業。
きもやく	腹をたてる	ごんぼほる	だだこねる
くさる	化膿する		
くだり	南風	さ行	
くだりひかた	南南西~南西の風	さいごっぺ	一番最後
くろがい	イガイの仲間(=まるこ一、ひいよりがい、からすがい)(貝)	さいもつ	おかず
け	食べる、食べる	さがる	卒業する
けあぶない	危ない	さぐり	家の外壁
けこんぶ	表面に胞子嚢が形成されているコンブ	さし	定規・ものさし
けさまえ	食べなさい	ざつかいそう	雑海藻、お金にならない海藻
けっばる	がんばん	ざらめ	スジメ、(=わかめ)(海藻)
ける	あげる	さるがに	ザリガニ(動物)
げんのう	金槌	され	どきなさい
〇〇〇こ	例「すずめっこ」小さい動物などの名称の語尾に「こ」をつけて、	さんば	昔：動力のない舢舨。現在：サケ定置網漁船のことをさす。
		しおいっぱい	潮いっぱい、満潮時
		しおがある	潮がある、潮が引いている

しおがたかい	潮が高い、満潮の状態	すげぐさ	=すげ (植物)
しおし	(=しおひき)	すけそ	スケトウダラ (魚)
しおひき	潮引き、潮が引いている、干潮の状態	すし	飯ずし
しかたかぜ	(=ひかた)、南風	すっぱねる	泥をはねる
じじ	じいさん	すなびき	コンブ干しの際、砂利がコンブに引っ付かないように、コンブを少し引くこと。
しずみこんぶ	沈みコンブ、岩から離れて海中に沈んでいるコンブ	すなほろき	=すなびき
したき	吹雪	ずんずん	どんどん
したつけ	バイバイ、さようなら	せかせる	急がせる
しのっちゅ	その期間が終るまで	せき	小川、小さい沢、(せぎ)
しない	ちょっと硬い、筋がある	せくな	急ぐな
しないこんぶ	一日で干せず、小屋などに入れた昆布	ぜんこ	お金
しねこんぶ	=しないこんぶ	ぞうのみ	ガマズミの実 (植物)
しばり	沈みコンブを船に引き上げる4本錨状の道具。	そったらべっこ	ほんの少し
しも	下、自分のいるところ (中心) より広尾側	た行	
しもかぜ	北東～東の風。とても強く吹く北風 (えりも岬)	だいす	スイバの新葉 (植物)
しもしお	下潮、下側から流れてくる潮流。(えりも岬)	たがえる	抱きかかえる
しもつっこみ	下突っ込み、下側から丘側へ流れてくる潮流。(えりも岬)	たかじ	地下足袋
しゃくこんぶ	尺コンブ、105cmの長さのコンブ。	たかじょう	=たかじ、地下足袋
しゃっこい	冷たい	たかのほ	マツカワ (魚)
しゃつぼ	帽子	たけのこ	ねまがり (チシマザサ) の新芽 (植物)
しゃべる	ものを言う	だっこのみ	キンミズヒキやミズヒキなどの衣服につく植物の種子のこと、(植物)
じよっぱり	意地を張る	たびのひと	旅の人、他所から来た人
じよめ	船底の水を抜く穴をふさぐ栓	たまかぜ	北北西～北西の風
しろこんぶ	白こんぶ、上手に乾かず表面が白くなった昆布	たまげた～	びっくりした
すが	つらら、氷	たまっこ	お小遣い、お年玉、
すげ	=すげぐさ、正月飾りの“としな”に使うカヤツリグサ科ホタルイ (植物)	たんぶ	継ぎ
		ちゃちゃら	雑昆布
		ちゃっこい	小さい
		ちようちよがい	ちようちよ貝、(貝)

	オオバンヒザラガイの背板	どっぷり	いっぱい、たっぶり
ちよっこしま	少しの間	どて (土手)	建物の周りに風よけのために土を積み上げたもの (えりも特有)
ちよっとされ	よける		
ちよべつと	少し	となりつぎ	隣り継ぎ、コンブ採取の合図を継ぎから継ぎへと連絡していくこと。
つぎばた	継ぎ旗。=枝旗。コンブ採取の作業の合図を知らせる旗、またはその役目の人。	とも	船尾
つっぱね	泥をはねる	とんが	鍬
つっかけられる	追いつかれる、急がされる	どんぐい	オオイタドリ (植物)
つみつくる	疲れる	とんべつかじか	=とうべつかじか、ケムシカジカ(魚)
つぶ	巻貝		
つらつけねえ	あつかましい	な行	
てがら	生乾きのコンブを小屋に入れるために結んだもの。	ながまる	横になる
てっかいこ	=てっかし	なげる	捨てる
てっかえし	=てっかし	なら	主にミズナラ (植物)
てっかし	親指だけが分かれている手袋 (手のひらの部分に刺子がなされ丈夫になっている)	なんぼ	いくら
てっかり	火	なんもない	気にしない
てっけし	=てっかし	にい	兄
でなづき	おでこ・額	におう	(=にお) エゾニュウの新芽 (植物)
でなんづき	=でなづき	にし	西風
てぼっこ	手ぼっこ、親指だけが分かれている手袋	にしたまかせ	西北西
でめん	賃金労働、賃金労働者	にしひかだ	西風
でめんとり	賃金労働者、賃金労働	にゃんこのめ	ネコの目、驚いて眼を丸くする、ありえないこと
てまかり	頼んで手伝ってもらうこと。	にんべ	まっすぐでない、ゆがんでる
てんこもり	山盛り	ぬくい	暖かい
とうべつかじか	=とんべつかじか、ケムシカジカ (魚)	ぬた	魚の腹わた・内臓
とかちもの	十勝もの、東風 (歌別)。 北東の風 (えりも岬)	ねねつぶ	=いそつぶ、あおつぶ、(貝) または、チヂミエゾボラなどの小さい巻貝。
とかちやませ	北東の風 (えりも岬)	ねまがり	チシマザサ (植物)
とっかり	アザラシ (動物)	ねまる	すわる、横になる、楽にする
とっちゃ	父さん	ねんね	姉
		のたばる	うつぶせ
		のつつり	たくさん

のな	キタムラサキウニ (動物)		すがい、くろがい) (貝)
のめくる	前のめり	ひらまくり	ひら：急な斜面、まくり：切った材を斜面から落とすこと。薪などを急な斜面を使って下に落とすこと。
のり	=いわのり		
<hr/>			
は行			
はくる	交換する	ぴんこ	魚体の小さいサケ (魚)
はしってあるけ！ いそげ！		ふなかぶり	船かぶり、転覆すること。
はせ	コンブを干す干竿 (「稲架：はせ」からきている。)	ぶりこ	ハタハタの卵塊 (魚)
はせがけ	はせにコンブを干すこと	ふるう	震える
はたくう	コンブ採取の際、コンブを降ろしに行く途中、コンブを降ろす最中、コンブ採り場所に向かう途中に、コンブ採取終了の合図が出ること。	ふんごむ	踏み込む
はたもと	旗元、コンブ採集をその日に行うか中止するか、何時に旗をあげ、旗を降ろすか、決めて最初に合図を出す人。	へいよう	コンブ採取の際、かぎ竿とねじり竿どちらで採ってもいいが、区域は決められている。
はたり	周り	べこ	牛
はちたん	お客様が飲むグラス	へらからい	つらい・しんどい、ひどい目にあっ た、だまされた、にがい
ばちっこ	末っ子	べろかじか	川に棲息するハナカジカ (魚)
はっかく	トクビレ (魚)	ほいど	ものもらい
はっちゃき	一所懸命に	ほくせいまわり	北西まわり、北西の風
はなさき	花咲き、コンブの表面にうまみ成分が大きな結晶となって花が咲いたように見えること、またはその昆布	ぼっこ	親指だけが分かれている手袋
ばば	ばあさん	ほとり	ぬくみ・温かみ
はらいしお	はらい潮、陸の方から沖へ流れる潮流	ほまち	へそくり
ばんきり	いつも	ぼりぼり	ナラタケ (きのこ)
ひがし	東風	ほんだか	そうですか
ひかた	南西～西南西の風。	ぼんでん	大きな浮玉、網を入れた位置を示す目印 (棒・旗がついた浮き)
ひたけ	火焚け、火をもやせ、		
ひとめ	人見知り		
ひよりがい	イガイの仲間 (=まるこ一、から		
<hr/>			
		ま行	
		まかたしない	採算がとれない
		まかす	(水を) こぼす
		まかなう	装う・出かける用意をする、仕度する、準備する
		まきり	小刀
		まくらう	食べる

まくる	めくる	やっとせい	早くしろ (急がせる時)
まくれる	急ぐ・とばす	やませ	東風、北～東～南南東から吹く風。
まぜとり	コンブを採取する際に、かぎどりで でもねじりどりでよいこと		庶野の岬から吹く風 (えりも岬)。 <やませから北になると凪る：えりも岬><やませから南になると 時化する：えりも岬>
まちゃまちゃするな	もたもたするな		
まっけ	渚近くに沈みたまっているコンブ を引き寄せる3本爪の投げ道具	やまのかみ	オニカジカ (魚)
まったぐ	またぐ	やむ	痛む・さぼりたがる
まなく	眼	やめれ	やめなさい
まるく	束ねる、コンブの結束。	ゆいっこ	暗黙の了解で手伝うこと、手伝う 人
まるこー	イガイの仲間 (=ひいよりがい、 からすがい、くろがい) (貝)	ゆずのは	エゾユズリハの葉 (植物)
まんさく	フクジュソウ (植物)	ゆるくない	容易でない
まんま	ごはん		
みずあか	=こけ。コンブの胞子嚢が成長し たもの、そのコンブ。	ら行	
みずぶね	水船、コンブ採取の際、船をひっ くかえしたり、船内に海水を入れ てしまうこと。	らいある	距離がある
		ろくたん	女の子が飲むグラス
みったくない	みにくい		
みなみやませ	南東～南南東の風	わ行	
みみ	エゾツノマタ (クロバギンナンソ ウ：海藻の一種)	わかめ	スジメ、 (=ざらめ) (海藻)
		わさこ	本気でない
みみのり	ギンナンソウにつく「のり」の一 種 (海藻)	わらし	子ども
		わらじ	(=わらし)
むい	オオバンヒザラガイ (貝)	わらしっこ	(=わらし)
むこうかし	向かい側	わらしゃんど	子どもたち
むったり	いつも	わらずか	(=がんず)、ナガヅカ
めんこい	かわいい	われ	私
めんこくない	可愛らしくない	わんずか	少し
もちよこい	くすぐったい		
もと	もともと	ん	
		んだ	そうだ
や行		んだか～	そうか～
やっと	早く		

### 謝辞

本稿を作成するにあたり、えりも特有の言葉について多く語っていただいた(株)ホロトラ建設の皆様、小金昭一氏、草野泰子氏、石川昭氏、石川憲吾氏、松井恵利佳氏ほか、ご協力いただいた多くのえりも町民の方々に感謝いたします。

### 参考文献

えりも昔語りを記録する会(2007)潮風とともに  
～えりも昔語り記録集.pp167. えりも昔語りを記録する会.

石垣福雄(1983)北海道方言辞典.pp466.北海道新聞社.

中岡利泰・白川由香里(2005)えりも町内における防風土手について～第1報 土手の分布と家屋の位置関係.えりも研究第2号.19-23.